

元召供ひし者の予なりたるに依て源毎も頼母を思
ひ金銀を多くとり世に居る下郎といふてお
郎く浅海に焼亡しし一討と娘を殺し
家賊強ひに焼亡しし一討と娘を殺し
手をもつて人数多くしこれ嫡子なりお母も大い面目
を失ひたるこのお母を憎まぬ人なかりなり

東海林集人助興方之事

一孝親は姫君二人の女房と下郎二人ともありれ
て歩みたるをぬる根付への細道をたどりて
行くれども聞きくらし道も又くわく神あふ

裾をぬる末も定かき誰を頼む所もなく小
無を分るやう程も夜明けの頃やう人里も近
しとて八雲の鶏の鳴き声にうへも落付て下
郎といひはむふ岩根沢日月寺と申山寺
まじと云ふに沼の平といふ所を幾程をといひま
かぎ計りとてさへいどくく急ぎせしとて
向ふ山の方の具ある者十三人張樂をおきて
いそはしく馳せ來りたり先はまゝ人の云ふ根
人く急ぎしは山中を若しも姫君の御身の上
に怪れもありたり殊に源毎を恨み時にか